

平成 29 年度在宅療養推進事業実施結果（平成 29 年 12 月末現在）

| | | |
|--|--|-------------------------------------|
| <p>●在宅療養の推進</p> <p>高齢者等が在宅で安心して療養できる体制を構築する。</p> | <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養希望者数の増加 ・在宅療養の実現が可能であると思う区民の増加 ・在宅看取り率の増加 | <p>【所管】</p> <p>地域医療課 高齢者支援課</p> |
|--|--|-------------------------------------|

1 多職種連携強化

※ 【在宅】・・・在宅療養専門部会、【認知】・・・認知症専門部会

| 課題 | 取組 | 実施結果 | 成果指標 | 今後の課題 | 担当・所管 |
|----------------|--|---|--|--|--|
| ①医療と介護の連携 | <p>事例検討会・交流会 4回/年 事例集の作成</p> <p>多職種連携研修 2回/年</p> | <p>【実施回数】3回（4地区各1回） 【参加者数】延 325名/354名（参加率 91.8%）、傍聴 63名（※第2回は傍聴なし） 計 388名 （28年度：4回実施 490名） 【参加職種内訳】ケアマネジャー 約 30%、薬剤師 約 25%、看護師 約 20%、医師・歯科医師 約 5% 等 【実施テーマ】睡眠薬に依存しないための支援、他職種に対する希望メッセージの共有、「食べたいものを食べたい」本人の希望実現への支援 【満足度】「非常に満足」「満足」の回答割合：第1回 82%、第2回 91%、第3回 86% 【他職種の理解度】「他職種の理解が深まった」の回答割合：第1回 66%、第2回 94%、第3回 90%</p> <p>【実施回数】 1回 3月実施予定。</p> | <p>・多職種連携に対する意識 「多職種連携における自身の職種の役割の理解が深まった」85% （第1回 77%、第2回 89%、第3回 88%） 「他職種の理解が深まった」83% （第1回 66%、第2回 94%、第3回 90%）</p> <p>・多職種連携に対する意識</p> | <p>・参加者層の多様化（開催日時の検討）</p> | <p>【在宅】 地域医療課 【在宅】 地域医療課 高齢者支援課</p> |
| ②病院と在宅スタッフとの連携 | <p>訪問看護同行研修</p> <p>退院支援の課題抽出</p> | <p>同行訪問 【実施病院数】4病院 【参加者数】38名 【満足度】86%（※12月14日回収分まで） 【訪看業務に対する理解度】100%（※12月14日回収分まで） 振返研修 【実施予定病院数】1病院（28年度：1病院） H30.2.27 実施予定 【予定参加者数】30～40名（うち訪問看護ステーションから5～9名参加） 【満足度】●% 【訪看業務に対する理解度】●%</p> <p>【意見交換会開催回数】8回（4地区ごと2回ずつ） 【参加職種】病院・在宅医・訪看・居宅・高齢者相談センター 【参加者数】各回9～11名</p> | <p>・訪問看護業務に対する理解度 同行訪問 86% 振返研修 ●%</p> <p>・調査報告書の作成 平成 29 年度 意見交換会終了（全 3 回/地区） 同年度内に報告書を作成</p> <p>・満足度（医療介護従事者、患者）</p> <p>・連携における利用状況</p> | <p>・手続きの簡素化</p> <p>・ガイドラインの周知 ・対象病院の拡大</p> | <p>【在宅】 地域医療課 【在宅】 地域医療課</p> |
| ③情報共有 | <p>情報共有ツールの活用</p> <p>連携シートの活用</p> | <p>医師会において、平成 28 年 1 月から試行的に実施。 ICTの活用について医師会等と協議し、検討を行う。</p> <p>高齢者相談センターおよび居宅介護支援事業所にて平成 27 年 11 月から 15,000 部配布中。 【周知】区民（区報、窓口、講演会等啓発事業で周知）、区内医療機関、民生委員（見本・案内を配付）練馬区薬剤師会認知症研究会、事連協研修会 【寄せられた声】「認知症の方に限らず高齢者に必要」「認知症になってからでは遅い。元気うちに医療機関に関係者を伝えるべき」（病院連携室） 災害時に活用できる」（事連協） 「自分は必要となる」「一人暮らし、出歩くのも困難だけど使いたい」（区民） 「配布場所を拡大できないか」「お薬手帳との組み合わせはグッドアイデア」（薬剤師）</p> | <p>・満足度（医療介護従事者、患者）</p> <p>・連携における利用状況</p> | <p>・周知、利用促進 ・薬局での配布 ・医療機関での確認等の推奨</p> | <p>【在宅】 地域医療課 【認知】 高齢者支援課</p> |

2 サービス提供体制の充実

| 課題 | 取組 | 実施結果 | 成果指標 | 今後の課題 | 担当・所管 |
|-------------------|----------------------|--|--|--|-----------------------------------|
| ①人材の確保・育成 | ケアマネジャー向けの在宅療養に関する研修 | 地域カンファレンス ※練馬、光が丘、石神井、大泉の4圏域で実施 【参加者数】 総計 191名 (内訳) 練馬:63名、光が丘:44名、石神井:30名、大泉:54名 【満足度】 99% (研修の理解)、100% (仕事への活用) 地域カンファレンス全体報告会 【参加者数】 124名 【満足度】 99% (研修の理解、仕事への活用いずれも) | ・満足度 地域カンファレンス 99%~100% 地域カンファレンス全体報告会 99% | ・ケアマネジャーへの更なる事業周知 ・圏域別地域カンファレンスの充実 (事例検討の時間および回数が増) | 【在宅】 高齢者支援課 |
| | 若年性認知症支援力向上研修 | 【実施回数】 1回 【参加者数】 23名 (ケアマネジャー5名 介護職等13名 生活相談員4名 サービス提供責任者1名) 【満足度】 90% (研修の理解、仕事への活用いずれも) | ・満足度 90% | ・参加者数の増加 ・参加しやすい日程等の調整 | 【認知】 高齢者支援課 練馬区介護人材育成研修センター |
| ②24時間体制・後方支援病床の確保 | 後方支援病床の確保 | 【利用者数】 延68件 (12月末現在) | ・利用した在宅医の負担軽減度 医療・介護資源調査にてアンケート実施 認知度 79% 事業評価 (良いと思った割合) 87% | ・更なる周知啓発 | 【在宅】 地域医療課 |
| ③相談・診療体制の充実 | 医療と介護の相談窓口 | 在宅療養に必要な医療と介護のコーディネートのための医療・介護連携推進員の配置 (H27~) 【医療・介護連携推進員】 高齢者相談センター本所 4か所 【医療相談実績】 延1,598件 【退院カンファレンスへの参加実績】 34件 | ・医療・介護連携チームの編成数 医療・介護連携チームの構築 延40件 | ・窓口の再編の周知 ・窓口の再編に伴う、推進員候補者の在宅療養相談・支援力向上 | 【在宅・認知】 高齢者支援課 |
| | 認知症相談事業の充実 | 専門医等による訪問相談および医療・介護のコーディネートのための認知症地域支援推進員の配置 (H27~) 【認知症地域支援推進員】 高齢者相談センター本所 4か所 【本所で受けた認知症相談】 延1,892件 【認知症相談事業協力医】 10名 【認知症相談実施】 4所×9回 【相談件数】 21回 49件 【訪問相談の実施 (初期集中支援チーム)】 13件 (医師同行5件内数) | ・医療や介護サービスにつながった件数 医療機関との連携 延520件 ケアマネジャーとの連携 延434件 介護サービス事業者との連携 延223件 | ・相談事業の事務局変更に伴う調整 ・今後の事業実施内容について医師との調整 | 【認知】 高齢者支援課 |
| ④地域資源情報の提供環境の充実 | 地域資源情報の構築 | 医療と介護の情報サイトの更新 【掲載情報】 全種介護保険サービス事業所 (約1,000件) 病院・診療所 } 訪問歯科診療所 } 東京都医療機関案内サービス (ひまわり) とリンク 訪問薬局 } 地域包括支援センター (29件) 生活支援情報 (約450件) | ・満足度 「介護事業者の情報などを相談で活用している」 「サロン活動など、参考になる」 「訪問していただける近隣の歯科が見つかった」 | ・周知、利用促進 | 【在宅・認知】 高齢者支援課 地域医療課 |
| ⑤介護老人保健施設の調査研究 | 介護老人保健施設ワーキンググループの開催 | ワーキンググループ 【実施回数】 2回 【参加老健】 区内全14法人 (理事長・事務長・理学療法士・ケアマネジャー等) 【参加者数】 各回11名~13名 報告会 【実施回数】 1回 【参加職種】 病院 (看護師、MSW、リハ職)、居宅、在支診、訪看、高齢者相談センター 【参加人数】 9名 | ・調査研究報告書の作成 ・ガイドブックの作成 | ・更なる情報発信 ・周知啓発のための場づくり ・ガイドブックの普及 | 【在宅】 地域医療課 介護保険課 |

3 区民への啓発・家族への支援

| 課題 | 取組 | 実施結果 | 成果指標 | 今後の課題 | 担当・所管 |
|------------------|---|--|---|---|----------------------------|
| ①区民への啓発 | 講演会の開催 (区内4地区対象): 4回) | 【実施回数】4回(4地区各1回) 【総計】参加者244名、満足度92%、在宅療養希望者数152名/62%(無回答を除くと73%) 【参加者数】第1回:46名、第2回:82名、第3回:57名、第4回:59名 【満足度(参考になった)】第1回:86%、第2回:95%、第3回:92%、第4回96% 【在宅療養希望者数】第1回:29名/66%、第2回:54名/76%、第3回:33名/66%、第4回:36名/64% | ・在宅療養希望者数 練馬区高齢者基礎調査 高齢者一般 25.3% 要介護高齢者 31.1% これから高齢期 30.0% | ・講演職種等の検討 | 【在宅】 地域医療課 |
| | 認知症講演会の開催 認知症フォーラム:1回/年 認知症地域講座:4回/年 若年性認知症講演会:1回/年 認知症の人の生活講座:2回/年 | 延参加者数 417名 認知症フォーラム 1回 【参加者数】52名 【満足度(良かった)】79% 認知症地域講座 3回 【参加者数】298名 【理解度(わかりやすかった)】96% 若年性認知症講演会 1回 【参加者数】41名 【理解度(参考になった)】97% 【認知症の人の地域生活】 生活講座にて地域密着型サービスを紹介 1回 【参加者数】26名 【理解度(参考になった)】100% | ・認知症に対する理解度 ・認知症に対する理解度 ・若年認知症に対する理解度 ・認知症の人の地域生活に対する理解度 | ・参加者数の増 | 【認知】 高齢者支援課 |
| | 区民啓発ガイドブックの活用 ・在宅療養ガイドブック ・認知症ガイドブック | 在宅療養ガイドブック 【発行部数】42,000部(27年10月～) ※12,000部増刷内数 認知症ガイドブック 【発行部数】33,000部(28年3月～) ※3,000部増刷内数 【配布先】(1)高齢者向けの区立施設 (2)医師会、歯科医師会、薬剤師会、訪問看護ステーション、病院 (3)町会・自治会 【学習会】2回(地域団体等)29年4月～ | ・在宅療養に対する理解度 練馬区高齢者基礎調査 在宅療養が難しいと思う理由 「在宅でどのような医療や介護を受けられるかわからない」 高齢者一般 22.4% 要介護高齢者 20.0% これから高齢期 12.4% | ・配布場所の充実 ・改訂版の発行 10,000部 | 【在宅・認知】 地域医療課 高齢者支援課 |
| | ②地域資源情報の提供環境の充実 | 地域資源情報の構築(再掲) | 医療と介護の情報サイトの更新 【掲載情報】全種介護保険サービス事業所(約1,000件) 病院・診療所 } 東京都医療機関案内サービス(ひまわり)とリンク 訪問歯科診療所 } 訪問薬局 } 地域包括支援センター(29件) 生活支援情報(約450件) | ・満足度 「介護事業者の情報などを相談で活用している」 「サロン活動など、参考になる」 「訪問していただける近隣の歯科が見つかった」 | ・周知、利用促進 |
| ③地域における支え合いの強化 | 認知症の人や介護家族への見守りの推進 | 【認知症サポーターの養成と活用】認知症サポーター養成 47回 1,737名 累計22,138名 ステップアップ講座参加者 2回 75名 | ・事業への認知症サポーターの参加 ステップアップ修了者中、区の見守り事業等への協力者 累計32名 | ・区事業等へのサポーターの活用 | 【認知】 高齢者支援課 |
| ④在宅生活支援の充実のための取組 | 介護なんでも電話相談 | 毎水曜日実施 30回 95件 【相談者の声】「(介護の悩みを)聴いてもらうことで整理ができる」(リピーター) 「(介護の悩みを)どこに相談すればよいかわからなかった。助かった」 「(介護の)苛立ちを治めることができた」 | ・満足度 | ・周知、利用促進 | 【認知】 高齢者支援課 |
| | 介護家族の学習・交流会 | 3回 83名 | ・満足度(負担感軽減) ・家族会や高齢者相談センターの利用 | ・参加者数の増 ・家族会や認知症カフェの周知、利用促進 | |
| | 認知症の人の生活講座(再掲) | 【認知症の人の地域生活】 生活講座にて地域密着型サービスを紹介 1回 【参加者数】26名 【理解度(参考になった)】100% | ・認知症の人の地域生活に対する理解度 | ・参加者数の増 ・地域密着型サービスの周知 | |

4 在宅療養の現状の経年的把握

| 課題 | 取組 | 実施結果 | 成果指標 | 今後の課題 | 担当・所管 |
|------------------|---|---|--|-------|----------------|
| ①在宅療養資源に対する課題の把握 | 医療・介護資源調査の実施 ・関係者へのアンケート 1回/3年 (在宅療養推進事業計画に併せ実施) | 【調査内容】・在宅医療・介護の提供状況 ・多職種連携の状況 ・今後の取り組み ・在宅療養推進事業の認知度 【調査期間】平成29年7月26日～8月31日 【調査対象】病院(地域連携室)、診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所 【配布数】1,572 【回収数】716(46%) | ・医療・介護資源の増加数、増加割合 ※平成29年4月と10月時点の比較 在宅診数：+1.5%(67→68機関) 歯援診数：+13.3%(30→34機関) 在宅患者訪問薬剤管理指導実施薬局 ：+1.2%(251→254機関) 訪問看護：+6.1%(49→52事業所) 居宅：±0%(209→209事業所) ・在宅療養の充足度(見つけやすさ) 往診・訪問診療 98% 歯科往診・歯科訪問診療 96% 訪問調剤 93% ショートステイ 95% | | 【協議会】 地域医療課 |
| ②看取りの実態の把握 | 死亡小票分析の実施 1回/1年 | ※平成30年度の実施を予定 | ・在宅看取り数、看取り率の増加割合 在宅見取り数 在宅見取り率 ・在宅看取り医療機関数 区内在宅見取り医療機関数 区内医療機関在宅見取り数 区内医療機関在宅看取り率 | | 【協議会】 地域医療課 |